

施 策 評 価 シ ー ト（平成26年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	施策 主管課	文化財課	施策主管 課長名	千葉達哉
	施策No.	3	施策名	文化財の保護と活用	施策の 目指す姿	文化財を適切に保護・活用しています	関係課名	花巻市博物館		
	現状と課題		・現在市内には国・県・市の指定を受けた有形・無形文化財が281件あります。また、1,000か所を超える遺跡が存在しており、開発に際しては発掘調査を行い、適切な保存に努めています。 ・少子高齢化や人口減少が進行している中、地域の活性化や個性あふれる地域が求められており、その地域の絆を結びつける重要な資産として文化財や伝統的な文化への期待や価値が高まっています。							

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

- (1) 文化財の保護
- ・文化財指定調査を行い、「八坂神社の青面金剛像庚申塔」「田力の青面金剛像七庚申塔」を新指定した（平成27年3月25日）。
 - ・指定文化財建造物及び指定天然記念物の維持管理(6件通年)を行うとともに、市指定有形文化財の所在確認調査(大迫16件、東和30件)を行った。
 - ・市指定文化財「三嶽神社拝殿」「丹内山神社付属建物及び境内」の保護保全に関する事業費の一部を補助した。(2件)
 - ・遺跡内での開発に係る指導・届出処理121件のうち、破壊が免れない遺跡を発掘調査により2遺跡(個人住宅関係1遺跡、大規模開発1遺跡)を記録保存した。
- (2) 文化財の公開と活用
- ・早池峰自然観察会・文化財セミナー・埋蔵文化財を活用した体験学習を実施した。
 - ・地域の要望により、発掘調査を行った地域において、調査成果報告会を開催した。
 - ・市内指定文化財説明板・標柱の設置及び修繕を15か所で実施した。
 - ・市博物館において、テーマ展及び特別展を開催した。
 - ・地域の歴史を学ぶために、博物館資料を活用した講座や体験学習、学校と連携した事業を開催した。

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
この1年間に市内の文化財関連施設を訪れたり、文化財に関連するイベントに参加した市民の割合	文化財に対する興味・関心や理解をするため、市内にある文化財関連施設を訪れたり、文化財に関連する講座等に参加しているか、その状況を示す指標	出典:まちづくり市民アンケート【新規】 問:あなたは、この1年間に市内の文化財関連施設(花巻市博物館 花巻歴史民俗資料館 石鳥谷歴史民俗資料館 東和ふるさと歴史資料館 石鳥谷農業伝承館 南部たばこ史料館 大迫文化保存伝承館 総合文化財センター)を訪れたり、文化財に関する体験学習、セミナー、講話等に参加したことがありますか? (1)ある (2)ない (1)と答えた市民の割合	%	目標値				26.0	29.0	32.0
				実績値	—	26.9	24.0	22.3		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	■成果指標「この1年間に市内の文化財関連施設を訪れたり、文化財に関連するイベントに参加した市民の割合」・・・【達成度c】 文化財関連施設のうち主要施設4館(市博物館・石鳥谷歴史民俗資料館・東和ふるさと歴史資料館・総合文化財センター)の総入館者数は、前年度比較53.5%となっている。これは、平成25年度に開催した藤城清治展(入館者29,034人)のような大きな企画展を平成26年度は開催しなかったことが主な原因と思われる。また市民を主対象とした講座・体験学習等のイベントの状況を見ると体験学習は増えているものの講座受講者は減少しており前年度比較で75%程度の受講者となり、総じて市民が文化施設等へ足を運ぶ機会の減少が見える。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1-1	文化財保護活用事業	文化財課	A	A
	市内の神社仏閣の構造調査、古文書や民俗芸能等の調査を実施し、調査報告書を刊行した。(3件調査)。文化財指定調査を行い、「八坂神社の青面金剛像庚申塔」「田力の青面金剛像七庚申塔」を新指定した。(計2件)			
1-2	文化財保護活用事業	文化財課	A	B
	市内指定文化財説明板・標柱の設置及び修繕を15か所で実施した。			
1-3	文化財保護活用事業	文化財課	A	A
	指定文化財建造物及び指定天然記念物の維持管理(6件通年)を行うとともに、市指定有形文化財の所在確認調査(大迫16件、東和30件)を行った。			
1-4	文化財保護活用事業	文化財課	A	B
	市指定文化財「三嶽神社拝殿」「丹内山神社付属建物及び境内」の保護保全に関する事業費の一部を補助した。(2件)			
2-1	埋蔵文化財保護活用事業	文化財課	A	B
	遺跡内での開発に係る指導・届出処理121件のうち、破壊が免れない遺跡を発掘調査により2遺跡(個人住宅関係1遺跡、大規模開発1遺跡)を記録保存した。			
2-2	埋蔵文化財保護活用事業	文化財課	A	B
	市内所在する史跡の環境整備を地元保存会に委託し実施した。(3か所)			
2-3	埋蔵文化財保護活用事業	文化財課	A	B
	総合文化財センターに所蔵ずる埋蔵文化財資料の整理を行い、その資料を活用し、小学生を対象にした体験学習を随時実施した。(参加者416名)			
3	展示活動事業	博物館	A	B
	開館10周年記念展覧会などテーマ展・特別展・展覧会を開催した(7回、企画展入館者数15,338人)			
4	教育普及活動事業	博物館	A	B
	展覧会の理解を高める講座や出前講座・体験学習を実施した(講座受講者数805人、体験学習受講者426人)			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)	
(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)	
(新たに取り組むべき事業はないか)	

6 施策の総合的な評価

(課題)	
・子供たちに体験学習を通じて文化に触れる機会を提供できたが、利用者が限定されている傾向が見られた。 ・市民を対象とした展示、講座、体験学習等の事業を実施する場合、ニーズや周知方法等を検討する必要がある。 ・入館者数が伸びない。	
(今後の方向性)	
・資料を持参した出前講座の開催など学習機会の手段について検討する。 ・市民を対象とした事業(展示会・講座・体験学習)について、ニーズの掘り起こし方法や参加しやすい環境づくりについて検討する。 ・数年に一度は市民ニーズに合ったテーマの規模の大きな展示会を開催する。	